



# りんご生産情報（6月号）

令和3年6月17日  
JAつがる弘前  
弘前北地区営農係

**摘果作業は、一つ成りから仕上げに切り替え、『最終着果量』を意識して作業を進めましょう。**

**気温の上昇とともに、ハダニの発生が目立ってきます。予察による適期防除、また草生管理を組み合わせることで防除対策を行いましょ。**

## 《摘果作業》

今年のように凍霜害やカラマツのみられた年は、摘果作業前半は「弱め」にする傾向が見られます。現在は果実形質や果台長が判別できることから、最終着果量を意識し、しっかりと間隔をとって「強く」間引くようにしましょう。

## 《肥大状況》

りんごの肥大は平年を上回り、順調に推移しています。

(6月11日現在)

地点	つがる		ジョナ		王林		ふじ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
新和	3.0	2.7	3.4	2.8	2.9	2.7	2.7	2.4
鬼沢	3.1		3.0		3.1		2.7	
三和	3.2		3.2		2.9		2.8	
十腰内	2.7		2.9		2.6		2.8	
農協平均	3.1		3.3		3.0		2.7	
りんご研	3.3	2.9	—	—	—	—	3.2	2.6

### 【充実している果そう】



## 《薬剤散布》

近年、輪紋病や褐斑病の発生が見られます。散布予定日に長雨などがある場合は、前倒して散布するようにしましょう。袋掛けの時期となります。薬剤散布後5日以上間隔が開く場合はすす病対策にオーソサイド水和剤 800 倍などで実洗いを行いましょ。

回数 (散布量)	散布時期 (散布日)	【無ボルドー方式】			【ボルドー方式】			防除上の注意
		薬剤名及び 混合順序	倍数	1,000 倍 当り薬量	薬剤名及び 混合順序	倍数	1,000 倍 当り薬量	
7 (500ℓ)	6月下旬 (6月17日)	オキシンドー	1,200 倍	835g×1 袋	IC ボルドー	50 倍	5kg×4 袋	◎ボルドー液散布時の目安 ①落花 25 日以降 ②毛ぶるい期以降 ③肥大 25 ミリ以上
		モスピラン	4,000 倍	250g×1 袋	モスピラン	4,000 倍	250g×1 袋	
		カルマツチ	770 倍	1.3kg×1 袋				
8 (500ℓ)	7月初め (7月2日)	オキシンドー	1,200 倍	835g×1 袋	IC ボルドー	50 倍	5kg×4 袋	アブラムシが多い場合は、 コルト顆粒水 6,000 倍または、 トランスフォームF 4,000 倍も使用する。 (ボルドー方式の場合はトランスフォームFを使用)
		サイハロン	2,000 倍	500g×1 袋	サイハロン	2,000 倍	500g×1 袋	
		マイトコーネ	1,000 倍	500cc×2 本	コロマイト	1,000 倍	500cc×2 本	
		カルマツチ	770 倍	1.3kg×1 袋				
9 (500ℓ)	7月半ば (7月17日)	オキシンドー	1,200 倍	835g×1 袋	IC ボルドー	50 倍	5kg×4 袋	前年に褐斑病が発生した園地では、 7月中～下旬にトップジン M1,500 倍も使用する。
		フェニックス	4,000 倍	250cc×1 本	フェニックス	4,000 倍	250cc×1 本	

## 《ハダニ対策》

発生予察を行う場合ナミハダニは樹冠内部、リンゴハダニは目通りの高さの新梢中位葉を調べましょ。

散布目安は、1 葉当たり 2 個体以上複数枚の葉に確認された頃、殺ダニ剤を散布ましょ。

草生管理で樹上の発生量を上手くコントロールましょ。

草生管理のポイントは株元の下草を残し、草刈り機の刈高は高め(6~7 cm)に設定ましょ。除草剤の多用はハダニの天敵を減らし、早い段階から樹上に追いやることにもなります。



薬剤名	ナミハダニ	リンゴハダニ	サビダニ	ボルドー混用	倍数	収穫前日数	効果発現程度	適要
エコマイト	○	○	○		2,000 倍	7 日	遅い	卵、幼虫、若虫にのみ効果あり。7 月上旬までに散布する。
コロマイト	○	○	○	○	1,000 倍	前日	速い	乳剤のため 6 月下旬までの使用は控える。
マイトコーネ	○				1,000 倍	前日	遅い	
オマイト	○	○			750 倍	3 日	遅い	8 月以降に使用する。